

子ども発達サポート ケルス

名東区にある「子ども発達サポートケルス」をご紹介します。ケルスでは3歳～18歳までのお子さんが、利用日ごとに10名ほど来所されます。創作や集団遊び・音楽療法やダンスなど、みんなで楽しめる活動を提供しています。一人ひとりに合わせた集団での活動や日常生活の自立を支援しながら、お子さんたちは楽しく遊び、放課後や余暇を過ごしてみえます。今回は、そんなケルスの日常をご紹介します！

創作活動

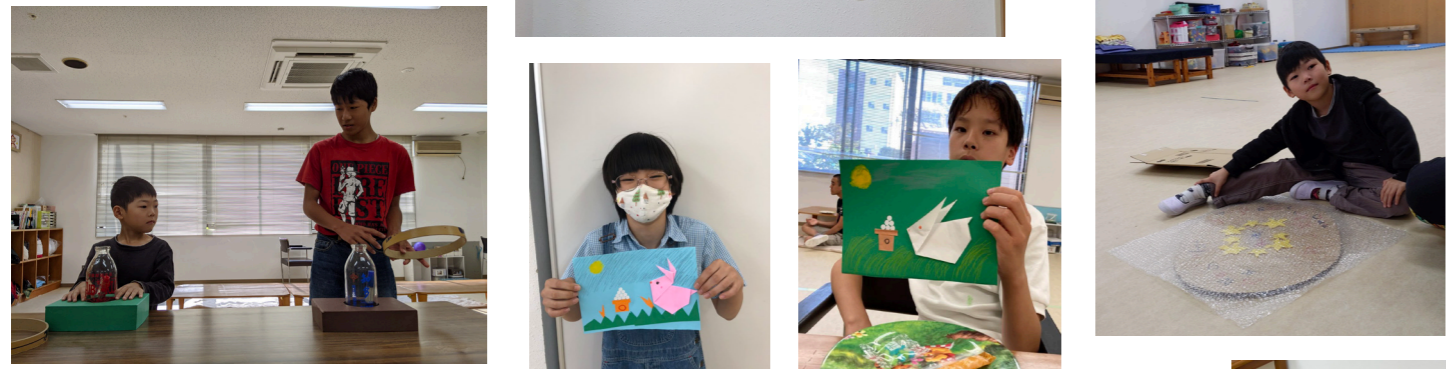
季節を感じられる年間行事は積極的に取り組むようにしています。なかでも季節感が感じられる創作活動は、自分を表現する大事な時間です。



工作が苦手なお子さんも、作りたい形を聞き取りながら一緒に表現していきます。



手が汚れる作業やハサミを使う作業にも挑戦！



子どもたちの「やってみよう！」が溢れてきます



自分の事は じぶんで！

ケルスが大切にする理念のひとつです。将来、自律をしたときに生活やお仕事のなかで「自分でできること」が自信につながるように、自分らしく楽しく過ごしてもらえきっかけにケルスでの経験が活かされることを目標に活動を提供しています。



自分でできることが
少しずつ増えていく！

食育

ケルスの食育は、「しっかり食べて、いっぱい遊ぶ活力に。」がテーマです。食べることが大好きな子どもたち！お昼ご飯は1人1合ペロリの子も。みんながあまりにもおいしく食べてくれるので、スタッフも作り甲斐があります。嫌いな食材もみんなと一緒に挑戦できる！暖かい食事をみんなで一緒に楽しんで。調理やおやつ作りは、いつか自分で作ってみたいくなるように、買い出しなどの準備も一緒にしています。1週間先のご飯のメニューまで楽しみにしている子も。



世代間交流

ケルスと同じ名東館には、就労継続支援B型作業所セレンがあります。セレンには10代～70代の利用者様が通所され、お仕事をしています。夏祭りやクリスマスなどの行事では、セレンのみなさんを招き、一緒におやつを食べたりトーンチャイムの発表会をしたりと、幅広い年齢層の方と交流する大切な機会です。



ケルス 責任者；西尾 友貴さんへの取材を終えて…

大学生の時にアルバイトで入り、その時に関わった子どもたちの卒業を見届けた！と教育学部に入り直してから、社員としてケルスに戻って来た西尾さん。まさか自分が子どもたちと関わる仕事に就くなって、と驚くほどケルスの子どもたちの「生き活きた生命」にハマってしまったそう。彼らの世界観に触発され、「この子どもたちの魅力をもっと開花させるお手伝いが出来ないか？」と日々創作活動の勉強を続けているという。西尾さんのその熱い想いを実践している日常を今回の特集で紹介しましたが、根本にある子どもたちへの想いを聞いたところ、「小学生～高校生まで長く関わられるケルスの良さを活かして、人と関わり生活する中で、楽しみながら自分の好きなことを見つけてほしい。それを継続する力を身につけ、『愛される子』に育ってほしいという願いをもって、支援を続けています。」との頼もしい答えが。それ以上にケルスの魅力を語っているのが、子どもたちの輝く笑顔ではないだろうか。